

令和元年 6 月 5 日

嬉野市議会  
議長 田中 政司様

## 文教福祉常任委員会報告書

文教福祉常任委員会  
委員長 増田 朝子

平成 31 年 3 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則 107 条の規定により報告する。

### 付託事件名 健康づくりについて

#### 調査理由

高齢化が年々進み、「健康寿命の延伸」を目ざすためにも特定健診やがん検診の受診率を高めることや市民全体が、健康に対するの関心を持ってもらうために、「健康マイレージ事業」の取り組みが本市において、今年度から導入される。そこで今回、先進地である武雄市の「健康ポイント事業」の取組みについて調査をおこなった。

#### 調査の概要

「健康ポイント事業」について

調査日	平成 31 年 4 月 23 日（火）		
視察地	武雄市		
対応者	福祉部 健康課 参事	永渕 晃子氏	
	福祉部 健康課 健康づくり係	田中 美由紀氏	

#### 武雄市の概況

人口：48,261 人（2018 年 10 月 1 日）

面積：195.40 k m<sup>2</sup>（杵藤地区広域市町村圏域の中心都市となっている）

平成 18 年 3 月 武雄市、山内町、北方町が新設合併し、武雄市が誕生

## 調査内容

### 1、導入の経緯

平成 21 年 11 月に「がん撲滅市民大会」の開催を機に東京大学医学部放射線科 中川恵一准教授を市政アドバイザーとして中学生へのがん教育「がんのひみつを知る学習会」を開催し、同年 9 月には「がん検診率向上課（検診第一係）を設置する。平成 24 年度からは健康づくり推進協議会にて「がん撲滅条例」及び「タバコ対策条例」の検討を開始し、市内事業所や関係機関への説明や喫煙対策等のアンケートを実施しながら条例の見直しやがんに特化した取り組みではなく、総括的な事業計画を進めていく。平成 27 年 10 月 18 日「健康寿命をのばそう！武雄市民宣言」セレモニーより健康ポイント事業の検討を開始し、翌年度より導入する。

### 2、事業概要

#### 〈目的〉

「健康で長生き」を市民共通のテーマと位置づけ、市民の健康づくりに対する行動変容と意識変容を促進し、健康寿命の延伸を図る。

#### 〈概要〉

健診受診や地域行事への参加、自分で決めた取り組みを実践することでポイントが貯まる制度

#### 〈対象者〉

20 歳以上で、武雄市民の方、または武雄市内にお勤めの方

#### 〈ポイントの内容〉

- ① 健康ポイント ② イベントポイント ③ チャレンジポイント
- ④ ウォーキングポイント ⑤ ボーナスポイント

#### 〈商品の選定〉

ポイント達成者 クオカード・図書カード（500 円分） 楼門朝市商品券（1000 円分）  
Wチャンス賞 5000 円相当の武雄の特産品

#### 〈実施期間〉

平成 30 年度	第 1 クール	4 月 1 日～9 月 30 日
	第 2 クール	10 月 1 日～3 月 31 日

### 3、実績と課題

#### 〈実績〉

平成 28 年度	2,432 人（達成者 461 人：19.0%）
平成 29 年度	2,376 人（達成者 510 人：21.5%）
平成 30 年度	2,468 人（第 1 クール 1,210 人：達成者 365 人：30.2%）

行動変容と意識変容（アンケートより）

「運動を意識するようになった」「食事を心がけた」「検診を受けようと思った」「目標継続の励みになった」

〈課題〉

・参加者の伸び悩み ・新規参加者を増やす工夫が必要 ・60歳以上が7割であり、若い年代の参加が少ない ・3ヵ年事業として実施しており、事業の検証を行い、31年度からの制度設計が必要

#### 【委員会の意見】

武雄市は平成27年10月18日に7つのキーワード（生きがい、休養、相談・講座、歩く、運動、食（栄養）、健診）からなる「健康寿命延伸宣言」がなされた。これは、平成21年11月の「がん撲滅市民大会」の開催を機に中学生へのがん教育や「がん検診率向上課設置など斬新的な取り組みがなされてきた。また、健康づくり推進協議会による条例の検討・審議など長年、健康に対する取り組みの過程が「健康寿命延伸宣言」「健康ポイント事業」につながっていると思われる。

本市においては、今年度から「健康マイレージ事業」が導入されるが、参加者が固定化にならないよう、誰もが楽しく参加し易いようなメニュー（種類も多く）やまた、参加者が負担にならないような簡単な手続きも必要と考える。そのためにも、担当課（健康づくり課）だけでなく、福祉課、文化・スポーツ振興課、観光商工課など横の連携が必要であり、さまざまな仕掛け作りがカギになると思われる。

さらに、参加者の地域間の格差も考えられるので、7つの地域コミュニティ間での取り組みも提案したい。そして、健康に対しての意識を高め、「健康寿命の延伸」に繋がる必要があると考える。